

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

第11回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ

令和4年の耳川流域の概況

令和5年3月10日

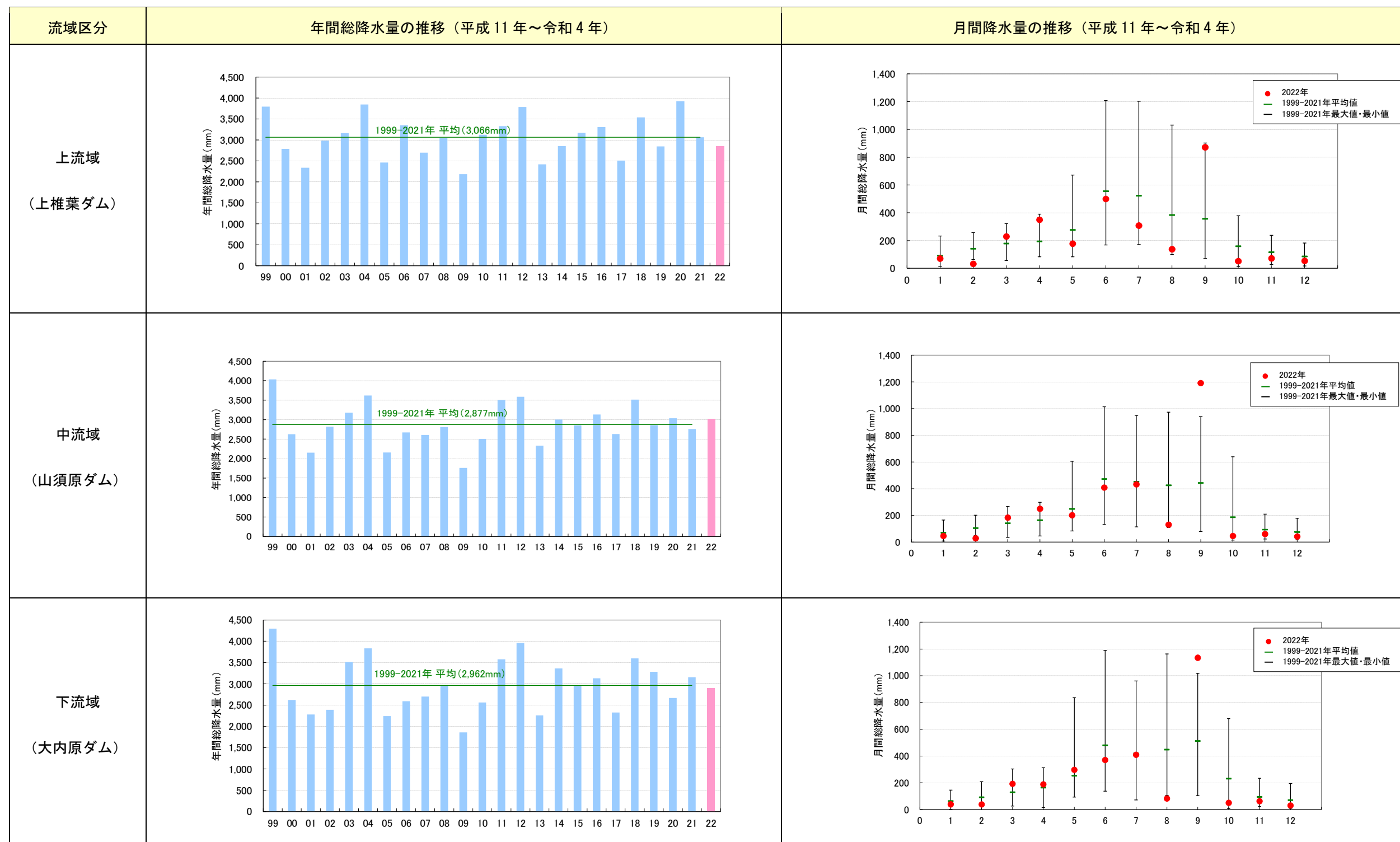
～令和4年耳川流域の特徴～

- 令和4年の年間降水量は、全流域において平均（平成11年～令和3年）と同程度であった。
- 令和4年の主な出水は、台風14号（9月17日～19日）であった。
- 令和4年度の月間降水量をこれまでと比較すると、上流域で平成11年～令和3年の変動の範囲内であったが、中流域・下流域の9月は、平成11年～令和3年の変動幅を超過して大きかった。
- 令和4年で最も大きかった出水は台風14号であり、山須原ダムでは、最大流入量が3,614m³/sであり、平成11年以降の24年間で2番目に大きい規模の流入量であった。また、大内原ダムでは、最大流入量が5,848m³/sであり、平成11年以降の24年間で最大の流入量であった。

1. 降水量の概況

各流域（上流域、中流域、下流域）の年間降水量と月間降水量を整理した。

- ・令和4年の年間降水量は、全流域において平均（平成11年～令和3年）と同程度である。
- ・令和4年の月間降水量は、上流域で平成11年～令和3年の変動の範囲内であったが、中流域・下流域の9月は、平成11年～令和3年の変動幅を超過して大きい。



2. 出水の概況

令和4年の主な出水は、台風14号（9月17日～19日）であった。

令和4年で最も大きかった出水は台風14号であり、山須原ダムでは、最大流入量が3,614m³/s（瞬時値）であり、平成11年以降の24年間で2番目に大きい規模の流入量であった。

また、大内原ダムでは、最大流入量が5,848m³/s（瞬時値）であり、平成11年以降の24年間で最大の流入量であった。

